

コニカミノルタ株式会社
2014年度第2四半期

決算概要

代表執行役社長 山名 昌衛

2014年 10月31日

- 本資料の記載情報

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

2014年度上期決算のポイント

情報機器事業、産業用材料・機器事業の収益モメンタムが引き続き堅調。前年比増収増益、計画上振れ基調を維持し上期を順調に折り返す。

売上高： 4,786億円（前年比 +6%増収）

- ✓ 情報機器事業でのA3オフィスカラーやプロダクションカラー新製品などハード販売増と堅調なノンハード売上、OPSやITサービス・ソリューションの事業拡大が増収に貢献。

営業利益： 292億円（前年比 +21%増益）

- ✓ 情報機器事業の増益に加えて、産業用材料・機器事業はHDD用ガラス基板の事業撤退効果やTACフィルムや計測機器の想定以上の販売増が寄与。

当期純利益： 147億円（前年比 +164%増益）

- ✓ 前年1Qでの繰延税金資産見直しに係る税効果(+92億円)、2Qでの事業撤退損失(△168億円)等の特殊要因が減少し、当期は正常化。営業増益に伴い大幅増益。

2014年度通期業績予想

先行き不透明な下期の事業環境を慎重に見極めつつ、上期における順調な業績進捗を踏まえて、通期業績予想を増額修正する。

<前回予想>

<今回予想>

売上高： 1兆円 → 1兆100億円（前年比 +7%増収）

営業利益： 620億円 → 650億円（前年比 +12%増益）

当期純利益： 260億円 → 300億円（前年比 +37%増益）

- ✓ 3Q以降の為替前提：ドル=105円、ユーロ=135円（期初:ドル=100円、ユーロ=135円）
- ✓ 配当予想：20円/1株（前年比 2.5円/1株増配）は据え置く。
※中間・期末配当：各10円/1株（前年:中間配当10円/1株、期末配当7.5円/1株）

2014年度上期 全社業績要約

	14年度 上期	13年度 上期	YoY	14年度 2Q	13年度 2Q	【億円】 YoY
売上高	4,786	4,505	6%	2,503	2,319	8%
営業利益	292	242	21%	175	164	7%
(営業利益率)	6.1%	5.4%	-	7.0%	7.1%	-
のれん代償却額	47	50	-5%	24	21	13%
のれん代償却前営業利益	339	292	16%	199	185	8%
(のれん代償却前営業利益率)	7.1%	6.5%	-	8.0%	8.0%	-
税引前当期純利益	275	1	-	157	△ 60	-
四半期純利益	147	56	164%	91	△ 42	-
(四半期純利益率)	3.1%	1.2%	-	3.6%	-1.8%	-
F C F	154	264	-42%	221	230	-4%
為替レート [円] USD	103.04	98.85	4.19	103.92	98.95	4.97
euro	138.92	130.00	8.92	137.76	131.05	6.71

2014年度上期 セグメント別売上高・営業利益

売上高	14年度	13年度	YoY	14年度	13年度	YoY
	上期	上期		2Q	2Q	
情報機器	3,812	3,494	9%	1,998	1,796	11%
オフィスサービス	2,860	2,705	6%	1,478	1,388	7%
商業・産業印刷	952	790	21%	520	409	27%
ヘルスケア	365	360	1%	204	197	3%
産業用材料・機器	595	625	-5%	294	315	-7%
産業用光学システム	274	319	-14%	141	158	-11%
機能材料	321	306	5%	153	157	-2%
その他	14	26	-	7	11	-
グループ全体	4,786	4,505	6%	2,503	2,319	8%

営業利益 (右側：営業利益率)	14年度	13年度	YoY	14年度	13年度	YoY
	上期	上期		2Q	2Q	
情報機器	303 7.9%	270 7.7%	12%	184 9.2%	169 9.4%	9%
ヘルスケア	10 2.8%	19 5.3%	-46%	10 5.1%	18 9.3%	-44%
産業用材料・機器	122 20.5%	90 14.4%	36%	56 19.0%	47 14.9%	19%
コーポレート他・消去	△ 143	△ 137	-	△ 76	△ 71	-
グループ全体	292 6.1%	242 5.4%	21%	175 7.0%	164 7.1%	7%

※ 情報機器事業の商業・産業用印刷には従来「その他」に含まれていた産業用インクジェットを含む。13年度実績も同じベースに見直した。

□ 上期売上高： 3,812億円（前年比 +9%）

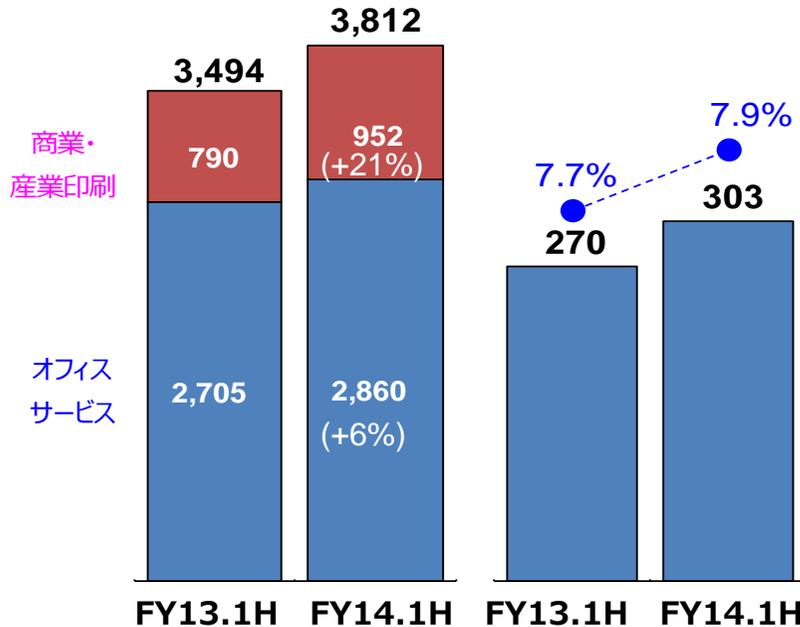
➢ オフィスサービス、商業・産業印刷両分野とも、カラー製品の販売増やサービス事業の拡大により増収。

□ 上期営業利益： 303億円（前年比 +12%）

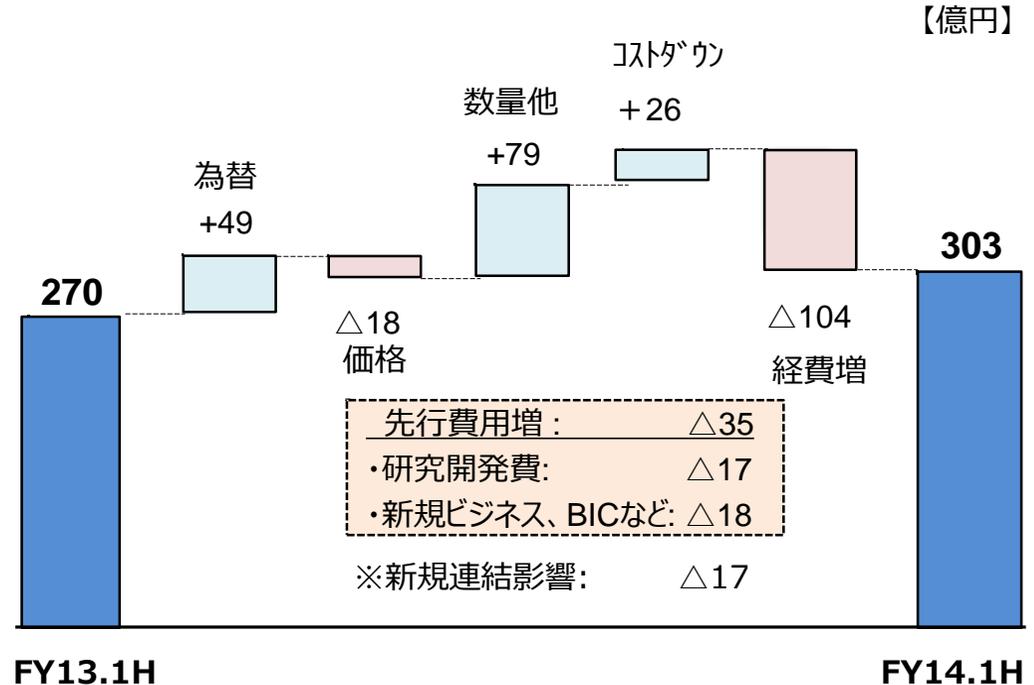
➢ 商業・産業印刷の採算性が1Qに引き続き向上し、増益を牽引。

売上高/営業利益 対前年増減

左：売上高 右：営業利益 - 営業利益率
 () 前年同期比 【億円】



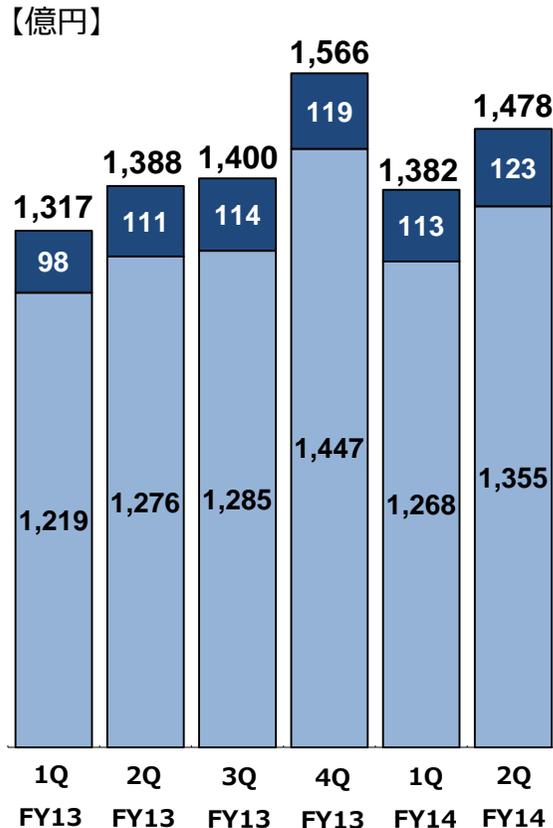
営業利益 対前年増減分析



□ 2Q売上高：1,478億円（前年比 +7%）

- 日米欧他の全地域でA3カラー機が販売増、欧米中心にハイブリッド型販売拡大により増収。
- OPS・GMA売上では、欧米中心に着実にアカウントを拡大。

売上構成四半期推移



ITサービス
ソリューション

123億円
(前年比 +10%)

- ✓ Hyland社(米国) とグローバルパートナーシップ締結。業種向けMCS*ソリューションの提供開始。

MCS: Managed Content Services・・・企業のコンテンツを統合的に運用・管理するためのソリューション

オフィス
プロダクト

1,355億円
(前年比 +6%)

OPS 売上高
188億円
(同 +77%)

GMA 売上高
61億円
(同 +16%)

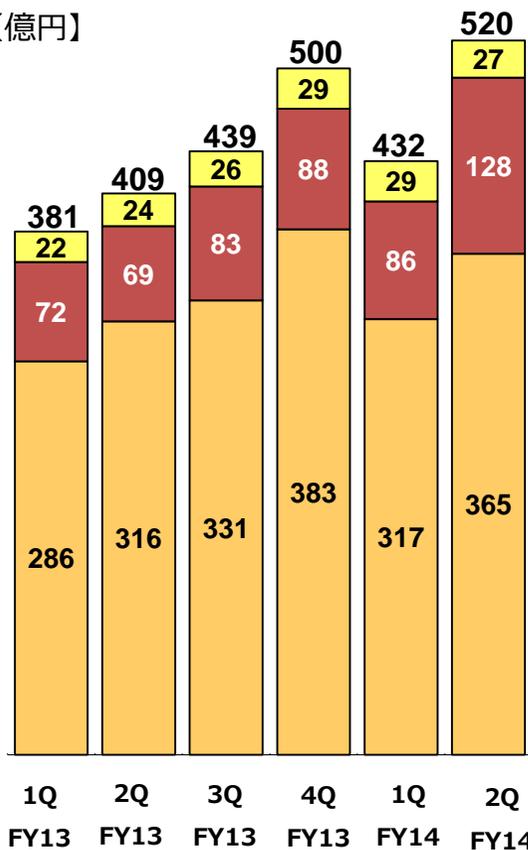
- ✓ 新興国向けA3カラー戦略製品導入し販売強化。
- ✓ 先進国での高セグメントカラーMIFの蓄積によりカラーPVが堅調。
- ✓ 米国に本社を持つ大手コンポーネントメーカー（航空機・軍事関連）から新規契約を獲得。

□ 2Q売上高： 520億円（前年比 +27%）

- 全地域でカラー機の販売が好調。MIF増加に伴うPV増も収益改善に寄与。
- アジア・パシフィックでのMPM*サービスに参入。グローバル展開も順調に進捗。

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

27億円
(前年比 +14%)

産業用
インクジェット

128億円
(前年比 +85%)

MPM・
プリントサービス

365億円
(前年比 +16%)

プロダクション
プリント

2Q 概況

- ✓ 中国拠点展開によりコンポーネントが販売好調。
- ✓ イタリア代理店を買収し販社化。

- ✓ Charterhouse社（英国）をベースに、汎欧州ベースで売上拡大。
- ✓ Ergo社（豪州）買収によりアジア・パシフィックへも事業拡大。

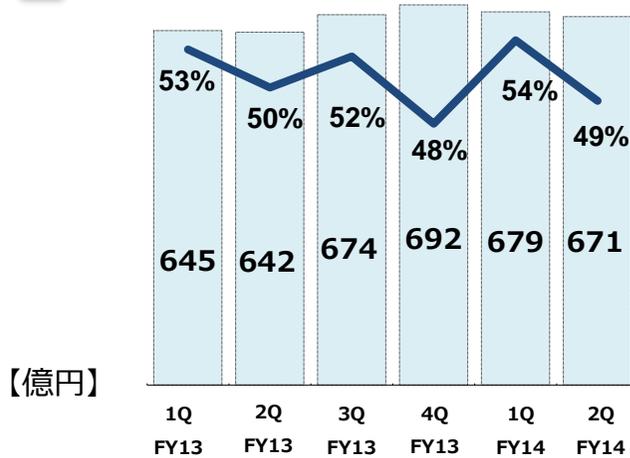
MPM: Marketing Print Management・・・大企業のマーケティング部門を顧客として、マーケティングに関係する印刷物購買の最適化を提供するサービス

- ✓ 6月発売のカラー新製品が日・米・欧中心に順調な滑り出し。
- ✓ 日・米・欧・その他の全地域で、ノンハード売上増収。

情報機器事業：ノンハード売上

ノンハード売上高・ノンハード比率

オフィスプロダクト



ノンハード売上高前年伸長率

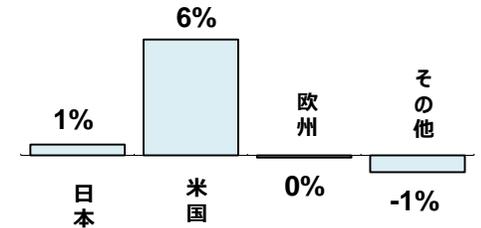
(為替影響除く)



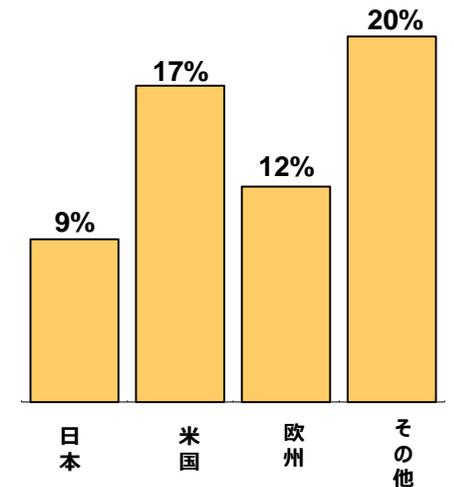
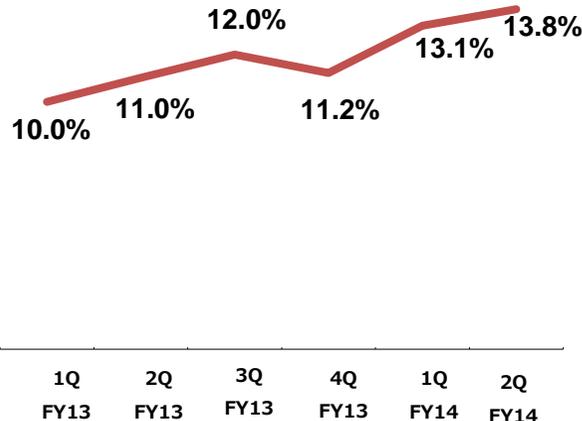
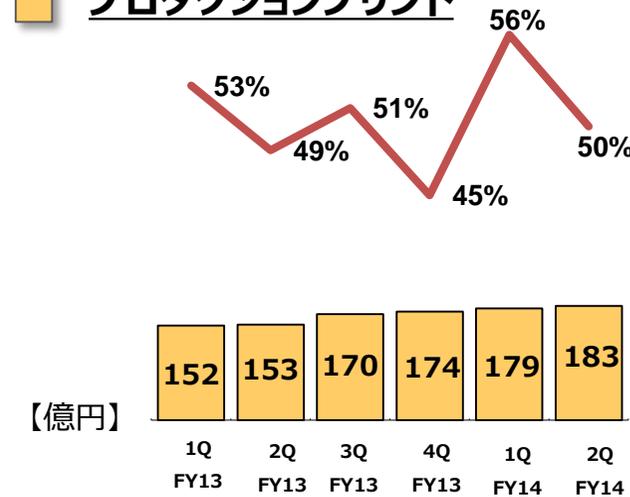
ノンハード売上高前年伸長率 (地域別)

【14年度2Q】

(為替影響除く)



プロダクションプリント



□ 上期売上高： 365億円（前年比 +1%）

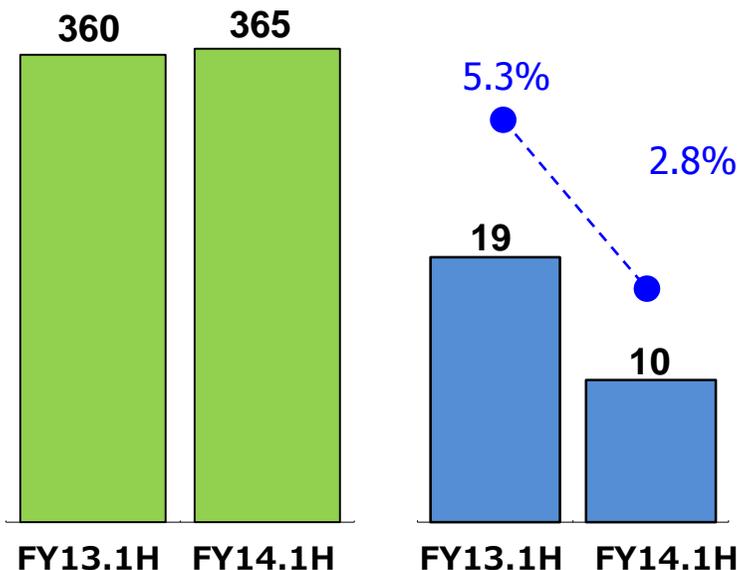
- カセット型DRは国内外で販売数量伸ばすも、社内計画に届かず。市況が弱い中、新規領域の超音波画像診断で新製品投入し前年並みの売上確保。

□ 上期営業利益： 10億円（前年比 △46%）

- 超音波画像診断立上げに伴う先行費用をデジタル販売増で吸収しきれず減益。

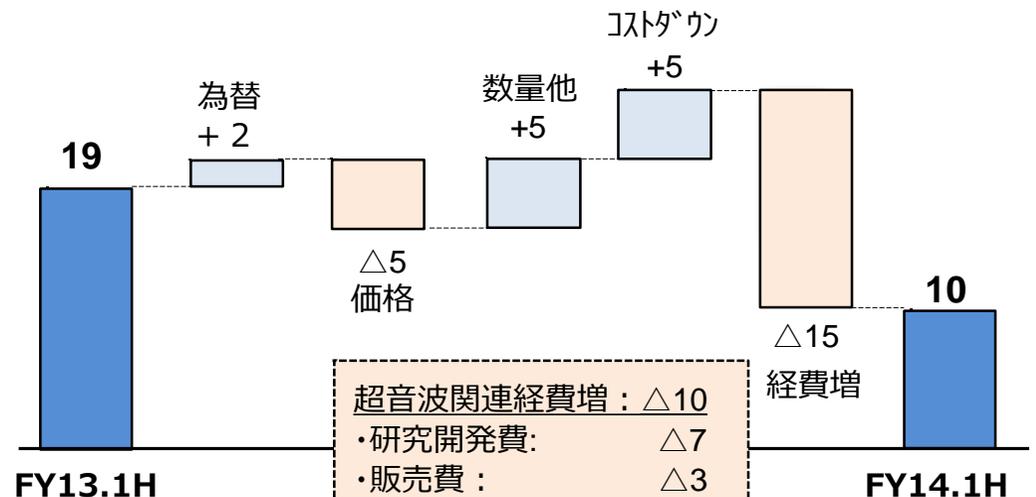
売上高/営業利益 対前年増減

左：売上高 右：営業利益 - 営業利益率 【億円】



営業利益 対前年増減分析

【億円】



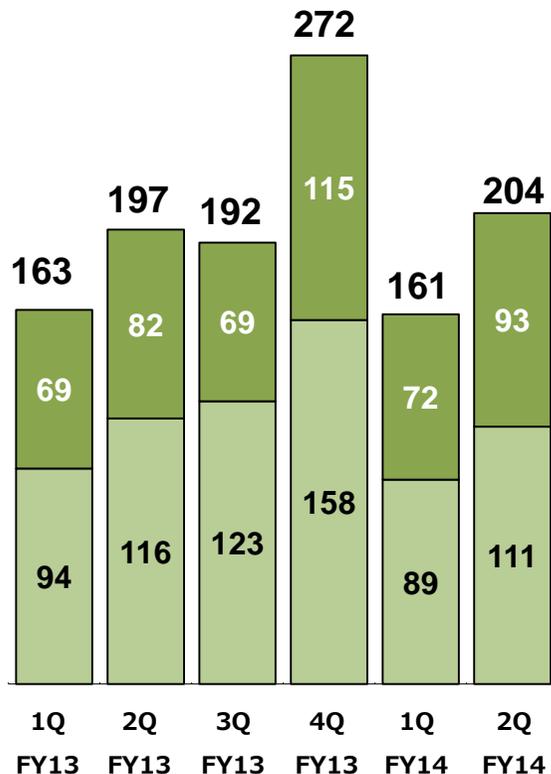
ヘルスケア事業：直近の状況（7-9月期）

□ 2Q売上高：204億円（前年比 +3%）

➤ DRは国内外で販売増が続くもCRの減少で相殺。超音波画像診断の本格展開始まり増収確保。

売上構成四半期推移

【億円】



売上高

93億円
(前年比 +13%)

デジタル

111億円
(前年比 △4%)

アナログ・その他

2Q概況

- ✓ カセット型DRは、国内はクリニック向け、海外は有力パートナーとの協業で販売数量二桁増。
- ✓ 超音波画像診断の新製品を投入。顧客の評価高く、3Q以降の事業貢献を見込む。
- ✓ フィルム製品は、海外は新興国中心に伸びるも、国内は市場縮小が続く。

※ デジタル：X線撮影装置（DR,CR）、超音波画像診断装置、医療ITなど
アナログ・その他：フィルム、イメージャー、仕入れ商材、など

□ 上期売上高： 595億円（前年比 Δ 5%）

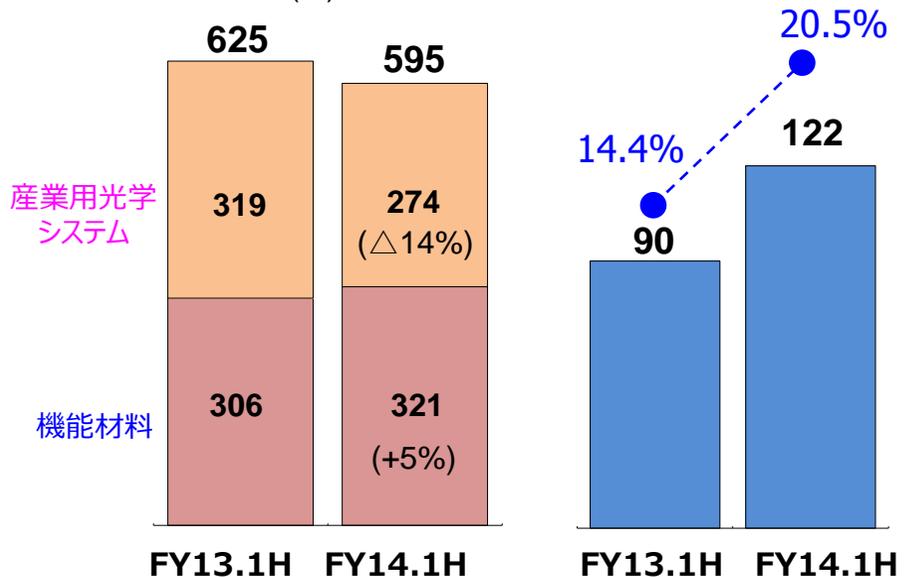
- ▶ コンパクトDSCの需要縮小、13年度に実施したHDD用ガラス基板事業撤退などの構造改革により売上高は減少。

□ 上期営業利益： 122億円（前年比 +36%）

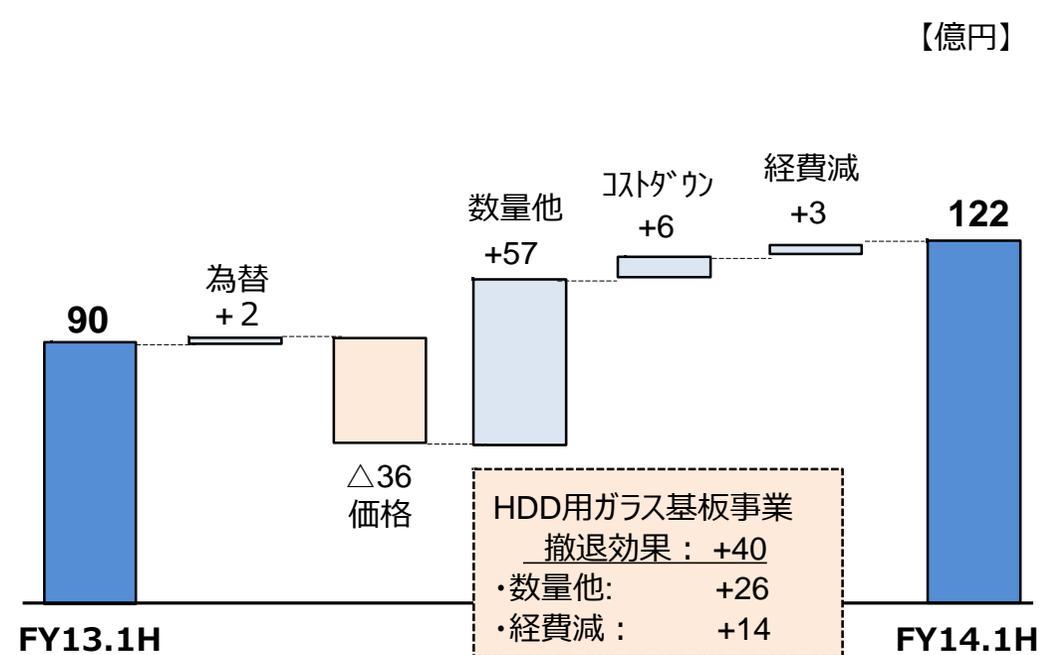
- ▶ 構造改革効果、機能材料や計測機器の販売増が増益に寄与。

売上高/営業利益 対前年増減

左：売上高 右：営業利益 - 営業利益率
 () 前年同期比 【億円】



営業利益 対前年増減分析

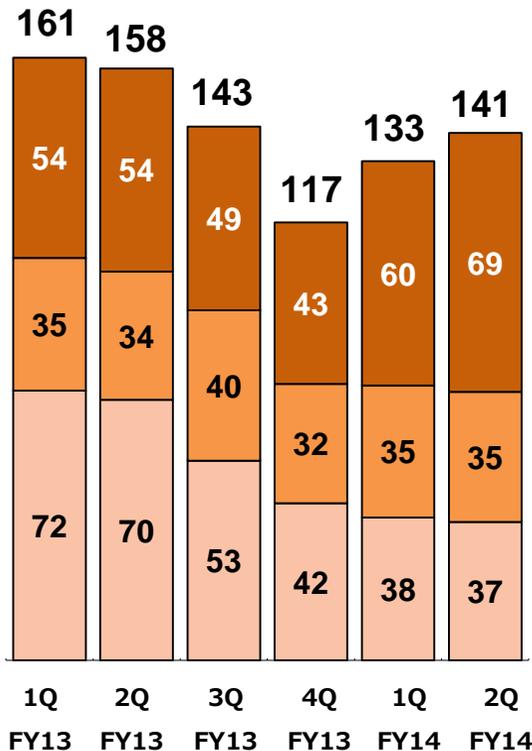


□ 2Q売上高：141億円（前年比 △11%）

- 計測機器は好調続くも、コンパクトDSCの需要縮小やHDD用ガラス基板事業撤退により前年比減収。

売上構成四半期推移

【億円】



計測機器

69億円
(前年比 +27%)

- ✓ IS社での大口顧客向け販売が好調。光源色用途を中心に売上拡大。

産業・プロ用
レンズ

35億円
(前年比 +3%)

- ✓ 厳しい市況の中、顧客拡大や製品ラインの強化で前年並みの売上確保。

その他

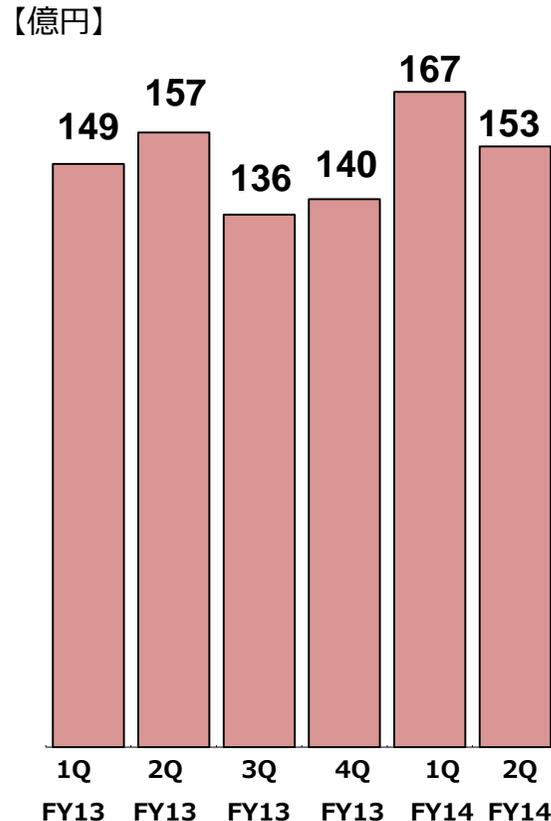
37億円
(前年比 △47%)

- ✓ コンパクトDSCの需要縮小、HDD用ガラス基板の事業撤退で売上減少。
- ✓ BD用ピックアップレンズはゲーム機向けに堅調。

□ 2Q売上高：153億円（前年比 △2%）

➤ TACフィルムは、大型液晶テレビ向け、中小型液晶パネル向けとも堅調に推移、前年並みの売上確保。

売上高四半期推移



2Q概況

■ フラットパネルディスプレイ向け

- ・ 大型パネル用
- ・ 中小型パネル用

- ✓ 画面サイズの大型化も追い風に、大型液晶テレビ向けVA-TACの販売が堅調に推移。
- ✓ 中小型パネルの需要も堅調。20-40μの薄膜TACが伸びる。

■ 新規領域

- ・ ウィンドウフィルム
- ・ バリアフィルム

- ✓ ウィンドウフィルムは、中国でのB2C展開に遅れ。
- ✓ バリアフィルムは、有望顧客向けにサンプル販売を推進。

2014年度業績予想 全社ハイライト

	14年度 今回予想	14年度 前回予想	13年度 実績	[億円] YoY
売上高	10,100	10,000	9,438	7%
営業利益	650	620	581	12%
(営業利益率)	6.4%	6.2%	6.2%	
経常利益	610	570	546	12%
当期純利益	300	260	219	37%
(当期純利益率)	3.0%	2.6%	2.3%	
EPS (円)	59.37	51.51	41.38	
ROE (%)	6.4%	5.6%	4.6%	
設備投資額	600	600	474	
減価償却費	550	550	474	
研究開発費	750	750	712	
FCF	10	20	342	
投融資	450	400	145	
為替レート [円]				
USD	下期 105.00	100.00	100.24	
euro	135.00	135.00	134.37	

1円変動時の為替感応度 (年間)

	売上高	営業利益
USD	30億円	3億円
euro	16億円	8億円

※USドルと連動してRMBが変動した場合、営業利益におけるUSドルの為替感応度は40%程度相殺される。

2014年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益

【億円】

売上高	14年度 今回予想	14年度 前回予想	13年度 実績	YoY
情報機器	8,100	8,000	7,399	9%
オフィスサービス	6,000	6,000	5,671	6%
商業・産業印刷	2,100	2,000	1,729	21%
ヘルスケア	850	900	824	3%
産業用材料・機器	1,150	1,100	1,161	-1%
産業用光学システム	550	610	578	-5%
機能材料	600	490	583	3%
その他	-	-	53	-
グループ全体	10,100	10,000	9,438	7%

営業利益（右側：営業利益率）	14年度 今回予想		14年度 前回予想		13年度 実績		YoY
情報機器	720	8.9%	720	9.0%	666	9.0%	8%
ヘルスケア	45	5.3%	70	7.8%	45	5.5%	0%
産業用材料・機器	185	16.1%	120	10.9%	152	13.1%	22%
コーポレート他・消去	△ 300	-	△ 290	-	△ 282	-	-
グループ全体	650	6.4%	620	6.2%	581	6.2%	12%

前回予想からの主な変更点

上期の計画上振れ、下期の事業環境及び事業間の強弱感を踏まえて、売上高及び営業利益を前回予想から以下のとおり見直す。

	売上高	営業利益	要因
I. 前回予想	1兆円	620億円	<為替前提：ドル=100円、ユーロ=135円>
II. 通期見直し	+100億円	+30億円	
情報機器	+100億円	据置き	・カラー製品販売堅調、欧州経済の不透明感
産業用材料・機器	+50億円	+65億円	・上期上振れも、下期は需要減少を織り込む
ヘルスケア	△50億円	△25億円	・病院市況変化に伴い販売施策見直し
コーポレート他・消去	—	△10億円	
<参考>為替影響	+75億円	+4億円	・下期為替前提：ドルを5円円安に見直す
III. 今回予想	1兆100億円	650億円	<下期為替前提：ドル=105円、ユーロ=135円>

情報機器事業

<オフィスサービス分野>

- ✓ 先進国では、ITサービスを梃にしたカラーMFP拡販強化。
- ✓ 新興国では、戦略機種投入でカラーMFP拡販強化。

<商業・産業印刷分野>

- ✓ カラー新製品の本格拡販とMPMサービスのグローバル展開推進。

産業用材料・ 機器事業

<産業用光学システム分野>

- ✓ 季節要因あるが、新規顧客獲得・新製品投入により物量確保。

<機能材料分野>

- ✓ 年内はVA-TAC中心に需要獲得。4Qは調整リスクを織り込む。

ヘルスケア事業

- ✓ DR・超音波新製品の優れた商品競争力を活かした拡販強化。
- ✓ デジタルビジネスの販売体制強化（医療ITサービス・超音波）。



KONICA MINOLTA

補足情報

<参考>2014年度通期業績予想 - IFRSベース -

当社は、当年度の有価証券報告書よりIFRS（国際会計基準）を任意適用いたします。IFRSベースでの業績予想について各方面から多くのお問い合わせをいただいている状況に鑑み、混乱を避け適切な情報開示を行う観点から、参考情報として以下のとおりお知らせいたします。

<日本基準>

<IFRSベース>

売上高： 1兆100億円 → 1兆円（前年比 +6%増収）

営業利益： 650億円 → 670億円（前年比 +15%増益）

- ✓ 加算要因：のれん代非償却、減価償却方法変更、など
- ✓ 減算要因：営業外収支（金融収支除く）、特別損益、など

当期純利益： 300億円 → 430億円（前年比 +96%増益）

- ✓ 加算要因：のれん代非償却、減価償却方法変更、など

ROE： 6.4% → 9.0%（前年度 4.6%）

2014年度上期 全社業績要約

	14年度 上期	13年度 上期	YoY	14年度 2Q	13年度 2Q	【億円】 YoY
売上高	4,786	4,505	6%	2,503	2,319	8%
売上総利益	2,370	2,140	11%	1,226	1,117	10%
(売上総利益率)	49.5%	47.5%		49.0%	48.2%	
営業利益	292	242	21%	175	164	7%
(営業利益率)	6.1%	5.4%	-	7.0%	7.1%	-
のれん代償却額	47	50	-5%	24	21	13%
のれん代償却前営業利益	339	292	16%	199	185	8%
(のれん代償却前営業利益率)	7.1%	6.5%	-	8.0%	8.0%	-
経常利益	287	215	33%	182	144	26%
税引前四半期純利益	275	1	-	157	△ 60	-
四半期純利益	147	56	164%	91	△ 42	-
(四半期純利益率)	3.1%	1.2%	-	3.6%	-1.8%	-
E P S (円)	28.86	10.48		17.91	△ 7.95	
設備投資額	256	195		115	79	
減価償却費	236	235		120	119	
研究開発費	367	346		184	173	
FCF	154	264		221	230	
投融資	121	30		49	6	
為替レート [円] USD	103.04	98.85	4.19	103.92	98.95	4.97
euro	138.92	130.00	8.92	137.76	131.05	6.71

営業利益増減分析

【億円】

上半期 前年同期比較 (14年度上期 vs. 13年度上期)

[要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計
為替影響	49	2	2	54
価格変動	△ 18	△ 5	△ 36	△ 59
数量増減他	79	5	57	144
コストダウン	26	5	6	37
経費増減	△ 104	△ 15	3	△ 127
[営業利益]				
増減額 (YoY)	32	△ 9	32	50

四半期 前年同期比較 (14年度2Q vs. 13年度2Q)

[要因]

	情報機器	ヘルスケア	産業用 材料・機器	合計
為替影響	21	1	1	24
価格変動	△ 10	△ 3	△ 17	△ 30
数量増減他	49	2	24	74
コストダウン	13	0	3	15
経費増減	△ 58	△ 9	△ 2	△ 72
[営業利益]				
増減額 (YoY)	15	△ 8	9	12

販売管理費・営業外損益・特別損益

				[億円]		
	14年度 1H	13年度 1H	YoY	14年度 2Q	13年度 2Q	YoY
販売管理費						
販売変動費	275	249	26	146	133	13
研究開発費	367	346	21	184	173	11
人件費	883	808	75	439	401	38
その他	553	496	58	282	246	35
販売管理費 計	2,078	1,898	180	1,051	953	98
	*為替影響額 :			+27億円 (実質増減 +71億円)		
	+54億円 (実質増減 +126億円)					
営業外収支						
金融収支	2	△ 4	6	0	△ 3	4
為替差損益	8	△ 5	13	8	△ 2	10
その他	△ 14	△ 17	2	△ 2	△ 14	12
営業外収支 計	△ 5	△ 27	22	7	△ 19	26
特別損益						
固定資産売却損益	10	△ 6	16	△ 4	△ 3	△ 1
投資有価証券売却・評価損益	0	0	△ 0	0	0	△ 0
事業構造改善費用	1	△ 176	175	1	△ 170	169
その他	△ 21	△ 33	12	△ 21	△ 31	11
特別損益 計	△ 12	△ 214	202	△ 25	△ 204	179

キャッシュ・フロー

	[億円]					
	14年度 1H	13年度 1H	YoY	14年度 2Q	13年度 2Q	YoY
税金等調整前四半期純利益	275	1	274	157	△ 60	216
減価償却費	236	235	1	120	119	1
法人税等の支払額	△ 63	△ 54	△ 9	△ 12	1	△ 13
運転資本増減他	△ 3	278	△ 282	112	250	△ 138
I. 営業活動によるキャッシュフロー	445	460	△ 15	377	311	67
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 291	△ 196	△ 94	△ 156	△ 81	△ 75
I.+ II. FCF	154	264	△ 109	221	230	△ 9
有利子負債の増減	△ 175	△ 31	△ 144	△ 114	△ 40	△ 74
自己株式の取得	△ 111	△ 0	△ 111	△ 76	△ 0	△ 76
配当金の支払額	△ 39	△ 40	1	△ 1	△ 1	0
その他	△ 10	△ 11	0	△ 6	△ 6	0
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 334	△ 82	△ 253	△ 197	△ 47	△ 150

貸借対照表

	[億円]		
	14年9月	14年3月	増減
資産の部			
手元資金	1,695	1,885	△ 190
売上債権	2,121	2,201	△ 80
たな卸資産	1,211	1,153	58
その他	643	654	△ 12
流動資産 計	5,670	5,893	△ 224
有形固定資産	1,799	1,734	66
無形固定資産	1,114	1,114	1
投資その他	989	920	69
固定資産 計	3,903	3,767	135
資産 合計	9,572	9,661	△ 88
負債および純資産の部			
仕入債務	888	962	△ 74
有利子負債	1,785	1,961	△ 176
その他負債	2,092	1,936	155
負債 合計	4,765	4,860	△ 95
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,790	4,784	6
その他	17	17	0
純資産 合計	4,807	4,801	7
負債・純資産 合計	9,572	9,661	△ 88
			[円]
	14年9月	14年3月	増減
USD	109.45	102.92	6.53
euro	138.87	141.65	△ 2.78

主要指標

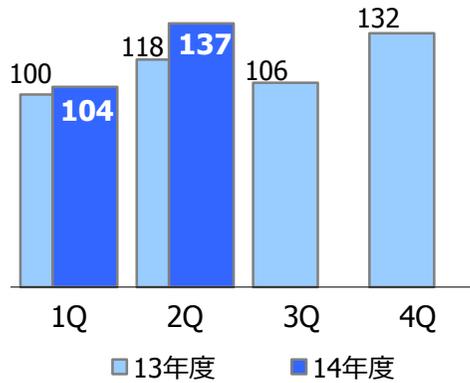
	14年9月	14年3月
D/ELシオ (倍)	0.37	0.41
たな卸資産回転月数	2.85	2.52
自己資本比率 (%)	50.0	49.5

情報機器事業：主要製品販売状況（四半期推移）

■ A3カラーMFP 販売台数*

YoY: +16%

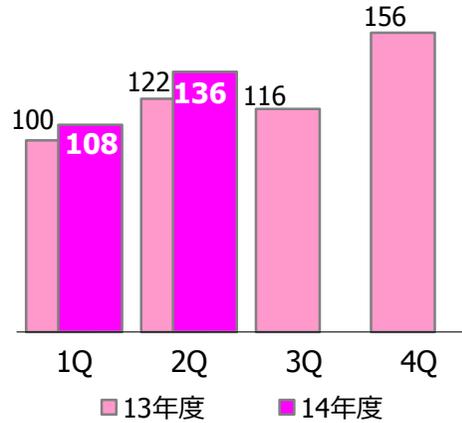
QoQ: +32%



■ カラープロダクションプリント 販売台数*

YoY: +12%

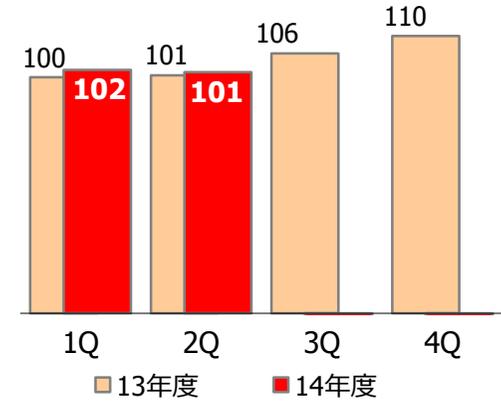
QoQ: +26%



■ オフィスノンハード売上*為替影響除く

YoY: +1%

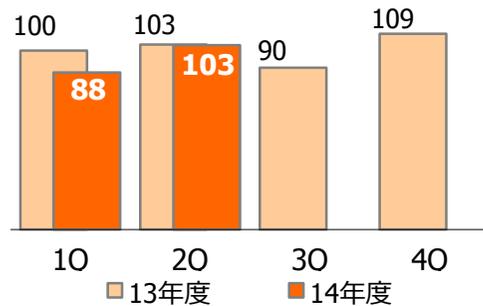
QoQ: Δ1%



■ A3モノクロMFP販売台数

YoY: フラット

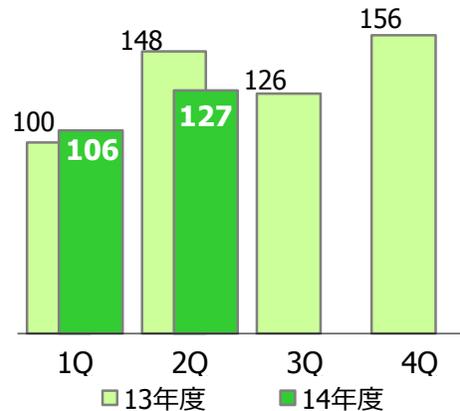
QoQ: +17%



■ モノクロプロダクションプリント販売台数

YoY: Δ14%

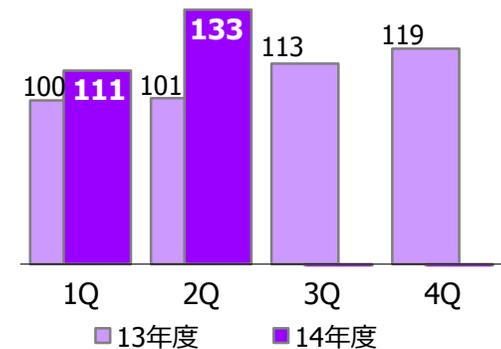
QoQ: +20%



■ プロダクションプリント ノンハード売上*為替影響除く

YoY: +32%

QoQ: +20%

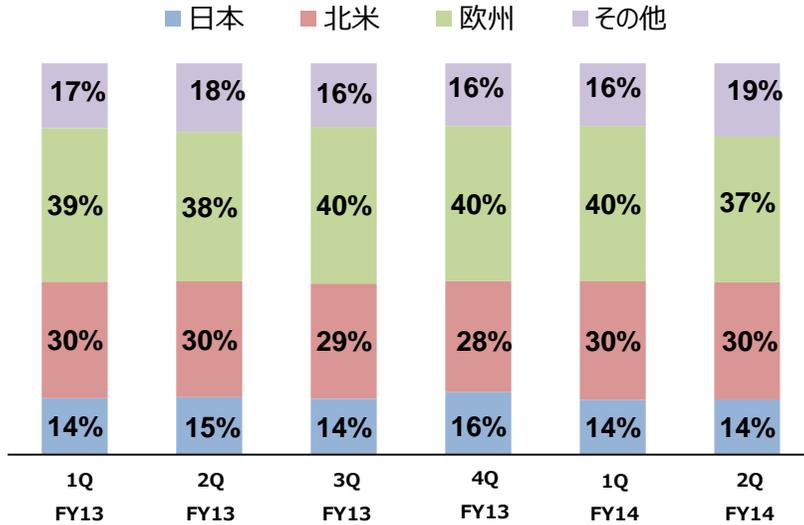


前方棒グラフ：2014年度実績 後方棒グラフ：2013年度実績

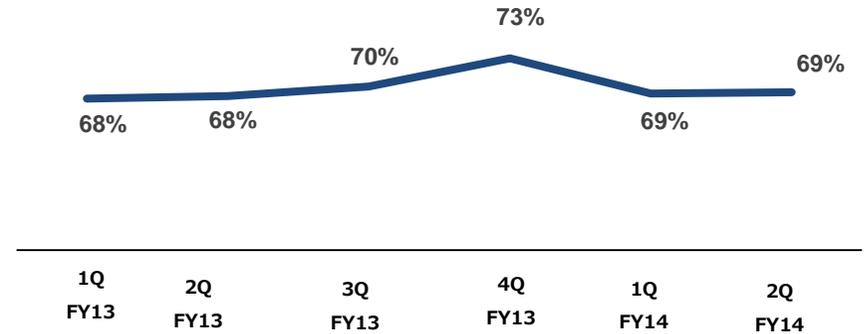
* 2013年度1Qを100とした場合の指数

情報機器事業：販売状況（四半期推移）

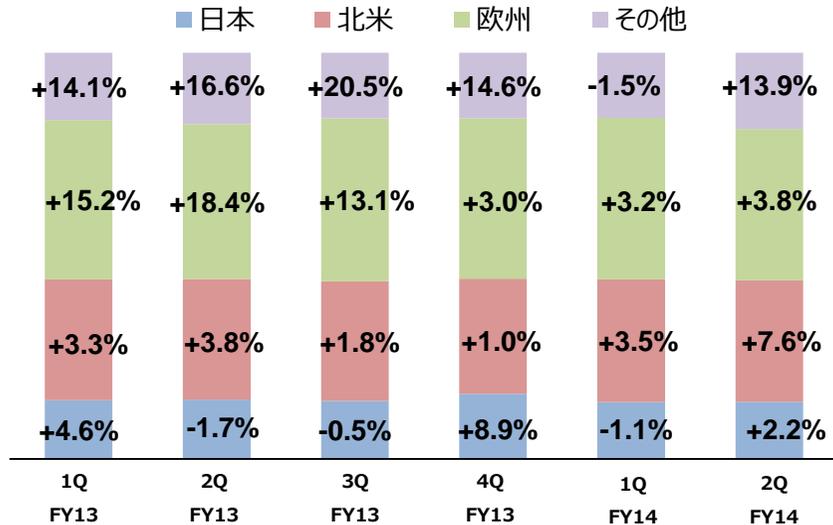
■ 地域別売上高構成比（円貨ベース）



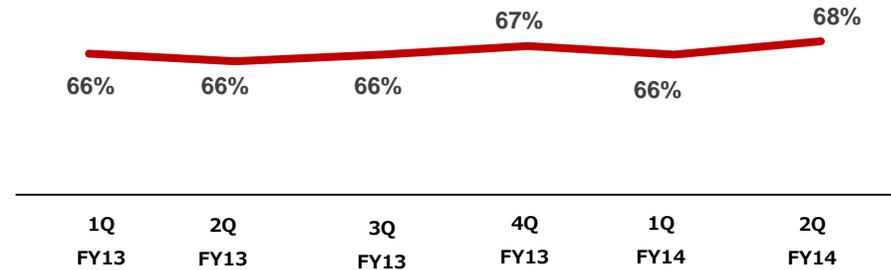
■ ハード売上に占めるカラー比率（オフィス）



■ 地域別売上高増減（為替除く）



■ ハード売上に占めるカラー比率（PP）



Giving Shape to Ideas



KONICA MINOLTA